

## 目的

- ・かもめ島マリニングを利用することにより、江差町の海や歴史文化への理解を深めた来場者を増加させる。
- ・かもめ島マリニングが、地域の海洋資産を幅広く体験できる海洋教育（海洋体験）の拠点として、全国の先進モデル事例となる。
- ・かもめ島マリニングが、海の学びを組み合わせたアウトドアコンテンツとして、持続的に自走可能な運営体制を構築する。

## 目標

- 海洋体験を備えたアウトドアコンテンツとして、幅広い客層が利用しやすい宿泊環境を整え、持続的な運営体制を確立する。

### 2023年度実施内容のまとめ

#### 実施①



【灯台マリニング宿泊の実現】  
第一管区海上保安部の協力により実施実現

#### 実施②



【自走化促進に寄与する宿泊環境整備・改善】  
ドーム1基増設と寒冷期向けCAMPプラン増設

#### 実施③



【海洋体験プランの刷新・ブランド力強化】SUP等の  
新5コンテンツ始動、海の家を復活させ啓発促進

### 量的成果（事業の拡がり）

- ① **売上高 ¥1,823,100**（宿泊 ¥1,187,400、体験・海洋イベント ¥232,500、団体 ¥333,000、物販 ¥70,200）
- ② **延べ参加者数1,058名**（宿泊113名、体験&海洋体験イベント344名、団体93名、海の家利用508名）
- ③ **メディア露出24回**（テレビ2回、新聞7回、WEB13回、雑誌2回）

### 質的成果（次なる展開への芽）

- ① 【団体】 毎シーズン恒例で使用したいというスポーツ団体を獲得した。AT団体（外国人）からマリニングに対して高い評価を得られた。
- ② 【教育連携】 連携の波及が年々広がっている。町教委との連携強化で校長会・教頭会とも情報共有を図れるようになった。
- ③ 【体験】 SUP愛好家をはじめ江差町の海の認知度が順調に向上しており、海の家復活によってビーチ利用者も新たな収益対象に囲い込むことができた。

### 2023年度 課題点

- ① 不測の体制変動が生じ、収益業務の本格開始が遅れた
- ② 上記により人員の再教育に多くの時間を要した
- ③ サマーキャンプではターゲットとしていた都市部からの利用獲得に至らなかった

### 2024年度 改善点

- ① 地域おこし協力隊編入で強固な事業体制構築を図る
- ② オペレーションのスリム化を促進し、収益の効率化を図る
- ③ 町との連携をさらに推進し、日本遺産・歴史文化コンテンツとの連携を進めて観光振興・情報発信の中心的役割を担っていく



**日本港湾協会企画賞受賞 (5月24日)**  
海洋振興モデル化と若年層の海洋理解増進に寄与



**海と灯台のまち会議登壇 (6月7日)**  
「灯台利用の現場から」経験共有と成果発表



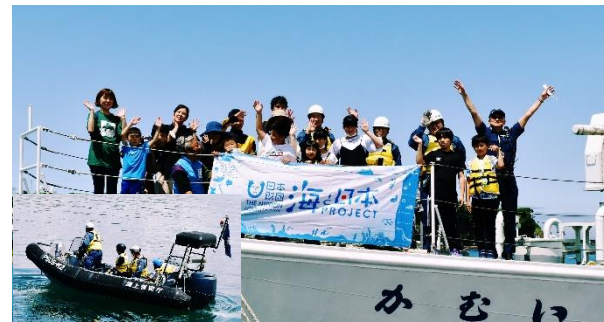
**川越宗一氏来訪アテンド (6月21日)**  
文藝春秋「オール讀物」鷗島灯台取材対応



**BSよしもと「ワシントコ・ポスト」出演 (6月22日)**  
「灯台で地域活性」として成果と取組発表



**海洋体験会2DAYS開催 (6月24～25日)**  
マリumping各種海洋体験を2日間にわたりPR



**江差海上保安署連携 (6月25日)**  
海洋体験会内にて海洋安全啓発コーナーを共同実施



**江差かもめ島まつり協力 (7月1～2日)**  
内覧会・灯台一般公開・海保イベント・マリホイール提供



**日本ビーチ文化振興協会視察 (7月18～19日)**  
来年度以降のビーチ振興での連携を継続模索するため



**海の家復活に成功 (7月22日～8月20日)**  
2024年度は監視員業務も町より受託する予定で計画中

## 2023年度 年間事業概要報告2



**初の一般団体キャンプ受入** (8月6～7日)  
JSS登別スイミングスクール21名を1泊2日で受入



**灯台マリッジの実現** (8月16日～10月31日)  
国有地使用申請関係のハードル克服し提供開始



**新ドームテント整備** (7月10日～9月11日)  
文化財保護・自然公園申請、建築、宿所許認可取得



**江差高校連携の本格始動** (9月1日～)  
5月～2年次海洋ゼミ受持ち、海の食メニュー開発を開始



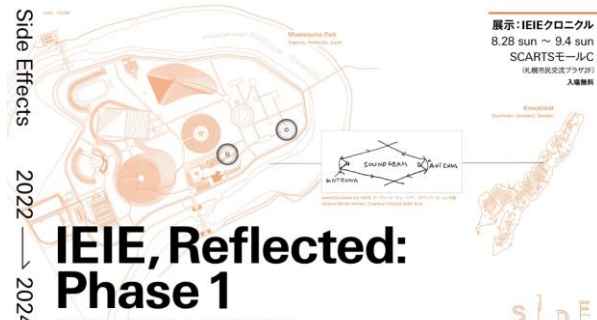
**道教大インターン生2名受入** (9月1～10日)  
マリッジの現場での事業研修による単位の取得



**ATWS PSAツアー受入** (9月10日)  
ATワールドサミットアジア初開催、道南モデルルートに編入



**サマーキャンプ開催** (9月16～18日)  
灯台活用・海ノ民話も含めた海洋体験提供、5名参加



**札幌国際芸術祭への協力** (9月23日～)  
島嶼を舞台にした、未完のアート作品を鷗島でテストラン



**冬期コンテンツ企画・調査中** (今冬テスト実施予定)  
極寒宿泊バック・スノートレック縦走ルート調査等を計画



### ■手ぶらキャンプ（26組70名：¥568,000）

4/29の開催から、夏期ハイシーズン終了の8/31まで計画通り開催。9/1以降は、寒冷期用「手ぶらキャンプ」の「オフキャン！」にプラン移行。提供終了を早めたにもかかわらず、ほぼ昨年同数（昨年27組）の実績を達成。



### ■既存マリnping（8組23名：¥499,400）

体制再構築後の提供開始（7/5～）で遅れを取った（昨年26組）が、専任コンシェルジュ導入で品質と評価がさらに向上。価格設定を上げてはいるものの、サービス対比で顧客の満足度の高さを維持することができた。



### ■灯台マリnping（2組7名：¥16,000）

第一管区海上保安本部と函館海上保安部の多大なサポート・バックアップのもと実現。町民宿泊体験1組でのテスト試験ののち、一般利用者への提供も成功。より「海」との関連性を強く打ち出せるプランなため、来年度以降も継続使用申請し、発展させていく。



### ■オフキャン！（4組13名：¥104,000）

9/1～提供開始。手ぶらキャンプの閑散期（5、6、9、10月の寒冷期）対策として耐寒性の高い装備で提供。4組の利用者からは高い快適性の評価を得ることができたため、北海道におけるキャンプシーズンの延長に大きく寄与するプランとして期待できる。



### ■新設マリnping

体制再構築後の工事となり、また検査と許可（道建設指導課および保健所）に想定外の期間を要した。10/1～提供開始もシーズン佳境であったため利用はなく、来年度からは最上位プランとして本格稼働を実施。

### ■冬期極寒体験宿泊パックのテストラン実施予定

2024年度の提供を目指し、今年度中にテスト提供を計画中。（詳細は後述）

① LINE予約システムを導入し、自社サイトでの予約受付を開始  
→新WEBサイトを2024年1月より公開し、2024年度分の予約受付を開始

② 手ぶらキャンプ宿泊のオペレーションスリム化による稼働率アップ  
→7～8月に限定する手ぶらキャンプ宿泊を夏キャンププランと位置付けて、「チェックインしたら、すぐ海へ！」をコンセプトに、テントサイトを常設稼働し設営の手間を削減。大幅なオペレーションコストの削減で稼働率を向上させる。

目標:30組 ¥540,000



③ 「オフキャン！」の販売促進と普及活動  
→5、6、9、10月の稼働率増加を目的とし、メディア・SNS等でのPR活動を実施。増加傾向にある寒冷期の利用を足掛かりに、「北海道でもできる春と秋キャンプ」の数少ない拠点としての売り込みを行う。また、ハイブリッドのテントやグッズが利用できるプランとしてもブランディング。

目標:20組 ¥480,000



④ 灯台マリンピング(新名称[LIGHT HOUSE])の活用と発展に向けた展開  
→「日本初の灯台敷地宿泊」としてPRを継続しながら、さらなる灯台の利活用に向けた企画開発を継続する。より「海」に関連付けるため、釣り客を対象とした「アングラーズ割引プラン」のほか、「灯台シアター」なども計画中。プランとしては、手ぶらキャンプの豪華版という位置付け。

目標15組 ¥675,000



⑤ 既存マリピング(新名称 [ MARINE ] )利用数の平準化

→「オーシャンビューを独占」できるマリピングのスタンダードプランとして、収益の柱にしていくための取り組みを行う。繁忙期のダイナミック・プライシングを前提とした価格設定、一定のニーズがあるホテルユース層向けライトプランの設定や、閑散期のキャンペーン(バイカーズ・ツーリスト・アングラ―素泊まりなど)を積極的に導入し稼働率を向上させる。

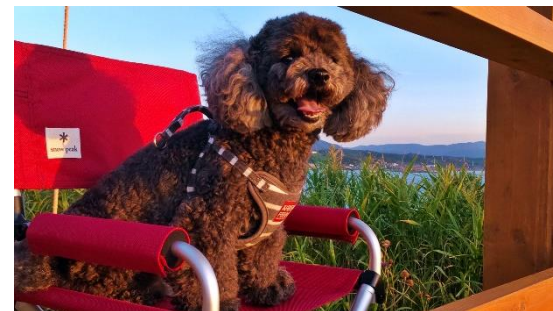
目標:22組 ¥1,430,000



⑥ 新設マリピング(新名称 [ ISLAND ] )の活用と発展に向けた展開

→島の最標高・突端部のロケーションを活かしたブランディングとして「天空のグランピング」をアピール。ペット同伴者や高所得者層の満足度向上と類似施設との差別化のため、「青空ブランコ」「ペット共有リビングテラス」等設備面を充実させたハイエンドプランとして展開。閑散期には「コスプレイヤー優待」などの企画も計画。

目標:12組 ¥900,000



⑦ 冬の極寒宿泊体験パック(W.I.A.~Winter Island Adventure~)の提供開始

→1日1組限定で、島の入り江ビーチを拠点としたパッケージを提供予定。全天候型で体験提供できるよう、状況に応じ豊富な体験バリエーションから全体をコーディネート。ライトアップ等の見栄えも重視。

目標3組 ¥150,000





■既存5コンテンツに加えて、さらに5つのコンテンツ増（全体344名：¥232,500）新たに「SUP」「水中ドローン体験」「シュノーケリング」「バルーン×2」コンテンツを開発、提供開始。SUPはマリンスポーツによる活動が波及し愛好家の中で「SUPの拠点」としての知名度ができてきた。水中ドローン体験は欧米利用者の評価も高く、シュノーケリングと海釣りは東京からの日帰り利用もあった。海の家臨時開設で当日利用受入も促進された。

① 海の家および海水浴場監視員業務の町からの受託

→ビーチ全体の賑わい造成・観光振興コンテンツ化を目指し、期間雇用を創出。相対的にマリンスポーツ体験も増加。江差高校の生徒から要望の出した「海上アスレチック設備」も町へ予算申請中。日本ビーチ文化振興協会が行う「渚の図書館」などとの企画連携も模索。物販やグッズレンタルも行い、収支面での負担減を図る。また、同施設を有効に活用するための展示スペース化なども計画中。



目標：海の家利用800名 ¥100,000以上

② 海洋アクティビティ系コンテンツの磨き上げによる魅力向上 目標：400名 ¥425,000

→「定着」「海の家の利用増」「提供期間延伸」が目的。さらなる磨き上げと、コンテンツ10種の継続提供。



SUP体験[ KAMOMEJIMA SUP ]  
ウェットスーツ貸与などで期間延伸、新コース開発。島一周の実現に向けた技術蓄積。



水中ドローン体験  
[ VIRTUAL DIVE ]  
外洋側のブルーホールなど、魅力的かつシーズン適地提供。



シュノーケリング体験  
[ SAFETY SNORKELING ]  
ファミリー向け水中観察・海遊び提案としての魅力向上。



バルーン体験  
[ MARINE&GRASS WHEEL ]  
高い集客効果、楽しい海遊び・島遊び手段を継続提供。

① 「海のそなえを学ぼう！かもめ島マリumping海洋体験会」／6月24日(土)～25日(日)開催 (121名参加¥80,000)



■ヴァーチャル・ダイブ  
(60分無料／20名)  
2日間開催、計4部構成。  
操作のほかVRゴーグル  
装着で疑似潜水体験。  
定員フル稼働を達成。



■マリン・ホイール  
(15分¥500／56名)  
2日間フル開催。集客性  
高く、地域住民のほか、  
一般観光客も多く参加。  
予想値以上の高稼働。



■KAYAK体験会  
(90分¥3,000／6名)  
25日に二部構成実施。  
カヤックの機運上昇に  
つなげる目的。サプライ  
ヤーとの連携を整備。



■みんなのSUP体験会  
(110分¥2,000  
／19名)  
25日に二部構成実施。  
一部ゲスト無料提供。枠  
に収まりきらず、後日改



■江差海上保安署「海のお仕事」見学・勉強会(90分無料／20名)  
25日に10名限定で募集をしたが、大幅に定員超過。江差海上保安署さんの  
全面的な協力のもとで計画修正し、受け入れが実現した。同保安署が単独イ  
ベント開催をすることはなく、ほぼ初めての経験をともに作り上げることができ  
た。今後も海洋イベントでのコラボや安全啓発の面での連携などを緊密に実  
施していける関係構築ができた。

めてミニ体験会を個別提供も。遠くは旭川や釧路  
からの参加もあり、極めて好評。



■海ノ民話ビーチカフェ  
25日のみ限定開設。  
●海ノ民話のまちプロ  
ジェクト「折居婆さんと  
鯨」海の家にて上映  
●海と灯台プロジェクト



巡視船「かむい」内部見学&  
ライフジャケットの有用性講座



ファイバー・ライト・クレードル  
救助法実演コーナー



高速救助艇体験乗船  
湾内クルーズ

「燈の守り人」海の家にて上映●無店舗型喫茶  
「たびする珈琲」による江差オリジナルドリンク提  
供&物販実施

ビーチの賑わいづくりの  
一環で上記動画を活用  
し、多くの人に足を止め  
ていただく事ができた。  
カフェ単独での収入が  
2万円超とのことで、過  
去の実績上最大であつ  
たとのこと。「黒豆ラテ」  
「キウィソーダ」は地産  
品を使用しており、今後  
マリumpingでも販売を  
模索中。



6:44

江差町 海保の巡視船見学  
救助活動を知る

参加した小学生

ボートが速くて楽しかった

6月27日 NHK函館  
「ほっとニュース函館」

かもめ島周辺で  
海洋体験楽しむ  
【江差北海道江差観光  
18人が参加し、参加者  
からは「元日本チャンピ  
オンの山本太一さん譲り  
人からパドルの持ち方  
を、その後、海上を走  
らせた。腰を少し曲けれ  
ば身体がバランスを取り  
やすい」等の助言を受け  
ながら練習15分ほど  
【江差北海道江差観光  
18人が参加し、参加者  
からは「元日本チャンピ  
オンの山本太一さん譲り  
人からパドルの持ち方  
を、その後、海上を走  
らせた。腰を少し曲けれ  
ば身体がバランスを取り  
やすい」等の助言を受け  
ながら練習15分ほど

住宅街でクマ目撃  
【江差】25日午前1時45  
分ごろ、町内町の町通路  
で、付着を通りかかった40  
代男性がクマ1頭を目撃  
し、江差に通報した。  
同業によると、クマは体  
つて水と遊ぶウサギ  
ホーリスを養った。  
日本財団の「海日本  
プロジェクト」の一環、SU  
Pの体験には町内外から  
18人が参加し、参加者  
からは「元日本チャンピ  
オンの山本太一さん譲り  
人からパドルの持ち方  
を、その後、海上を走  
らせた。腰を少し曲けれ  
ば身体がバランスを取り  
やすい」等の助言を受け  
ながら練習15分ほど

6月15日 北海道新聞告知記事  
6月26日 北海道新聞紹介記事

©北海道新聞社



① 「かもめ島マリリンピング・アドベンチャーキャンプ」／9月16日(土)～18日(月)開催 (5名参加 ¥100,000)  
～サマーキャンプ方式の商品開発の調査・開発のため実施。初の2泊3日でのキャンプイベント開催となった。  
「海に触れる機会を様々な手法で提供」し、海洋環境・海のそなえ・英語に親しむ教育面での魅力も付加した。

■DAY1 (夕食含む)

- ・入島式、ALT講師の自己紹介
- ・弓切り式火起しに挑戦～本格アウトドア体験の提供
- ・海鮮BBQディナー～地域海産物を自由に調理し楽しむ
- ・焚き火イングリッシュ～焚き火を囲み、英語で自己紹介など
- ・灯台ミニシアター～海洋体験会と同じ動画を灯台にプロジェクション上映



■DAY2 (朝食・昼食・夕食含む)

- ・漁船乗船体験～定置網の現場を訪れながら島を一周
- ・アイランドトレック～外洋側の岩礁部を縦走しながら、海洋生物のデータ収集のカニ釣り・海釣り・ガサガサ調査
- ・アクティビティ体験～SUP・シーグラスクラフト・バルーン体験
- ・秋鮭学習&魚捌き・調理～石狩鍋とちゃんちゃん焼きを調理
- ・ナイトハイク&英会話タイム



■DAY3 (朝食含む)

- ・「思い出パネル」作成～島に残す記念品の作成
- ・離島式



「商品化」に向けて得られた、新たなテーマ

- 都市部からの集客を目的とする場合は、少なくとも6か月前後の募集期間を設ける必要があったと推測
- 往復の交通手段を含め商品化するパッケージ化も整備すると、さらに利用が広がるのでは
- 遠方から参加を募る以上、雨天でも実施できる環境整備が必要となる
- 保護者が「参加させたい」と感じる「郷土体験要素」も盛り込めば、さらなる魅力向上につながる

「海的那えを学ぼう！かもめ島マリソピング海洋体験会」

- 小さな町で、こんな素敵な体験ができることが素晴らしい  
(ヴァーチャル・ダイブ／イギリス男性)
- 道内を回り尽くしているが、安全な環境が確保されていて、天候に左右されにくいかもめ島の環境は特別  
(SUP体験会／釧路市女性)
- イベントを知らずに観光で訪れたが、当日そこへ飛び込める感覚が嬉しかった  
(マリン・ホイール／函館市男性)
- 小さな町で毎年、子どもたちへ海に触れる機会を与えてくれて感謝している  
(海保イベント／道職員男性)
- 海のない町の家族なので、海洋イベント参加は貴重な経験  
(海保イベント／隣町保護者女性)
- 自身が海好きで、子どもにもできるだけ海に触れさせたいと思っているので、また参加する  
(海保イベント／町内保護者男性)
- かつてのように海が賑わい、また海の家が再開されるのが嬉しい  
(海ノ民話ビーチカフェ／町民女性)
- 素晴らしい機会に恵まれ、本署としても協力しながら積極的に啓発活動を考えていきたい  
(江差海上保安署長)

「かもめ島マリソピング・アドベンチャー・キャンプ」

- 参加費(テスト価格2万円)はもっと支払う価値があると思う保護者もいるのでは  
(町内中学1年生の保護者)
- キャンプ後、自分でもシーグラスクラフトを始め、熱中している  
(町内中学2年生の保護者)
- 特別支援学級の子どもでも快く受け入れていただき、感謝している  
(隣町中学1年生の保護者)

- ① 寿都中学校1年生研修旅行 初受入（5月19日／19名参加¥19,000） →来年度も利用の意向  
～同校がマリンスポーツの江差高校連携に興味を持ち、総合学習に取り入れたいという担当教諭の申し出により実現



【参加者から】

・寿都でも体験できそうなことがいろいろ見つかри、持ち帰って考えたい

【担当職員より】

・モデルケースとして見せていたマリンスポーツの現場に、子どもたちを連れてこれてよかった

→次頁記載の活動の広がりへ

- ② 乙部中学校1年生遠足 2年連続で受入（6月23日／20名参加¥15,000） →来年度も利用の意向

- ③ 近隣自治体教育委員会バスツアー 初受入（7月28日／19名参加¥11,000）

～今金町教委が企画する子ども向け自然体験バスツアーの体験立ち寄りとして、海洋体験3種提供

【江差町教育委員会より】

・繁忙期の依頼にもかかわらず、受け入れていただき感謝している

→連携体制の強化につながり、その後のアドベンチャー・キャンプで多くの協力をいただくこととなった

- ④ 登別ジャパン・スイミングスクール・サマーキャンプ 初受入（8月6～7日／21名参加¥168,000）

～同団体が生徒向けに毎年企画するサマーキャンプ・イベント適地として、職員を数度、実地説明したことから実現



【参加者から】

・遊びや体験が盛りだくさんで楽し過ぎ！

【担当職員より】

・子どもたちの反応がこれまでで一番、良いロケーションで楽しんでいる様子だった

→来年度も利用の意向

後日、北海道エリア本部の広報担当者からも連絡あり

→エリア全7店舗へも情報共有を図り、利用を促すとのこと

- ⑤ 戸井学園8年生研修旅行 3年連続で受入（8月31日／5名参加¥5,000） →来年度も利用の意向

江差高校 南ひやま学  
2年次ゼミ過程  
【海洋】【経済】  
2ゼミの講師着任

寿都中学校 総合学習の担当教諭が、マリumpingと江差高校の連携に関心を寄せ、参加を打診

事業の広がり

5月19日  
1年生の総合学習  
実地研修先として  
研修旅行受入  
(前頁記載)

経験を持ち帰り  
寿都町独自の海洋体験を  
考える  
(町・教委なども連携)

寿都中学校 学習成果発表会実施



WEB対話にて、寿都  
のアイデアを発表し、  
江差高校生が改善  
のアドバイスを施す。  
現在、活動継続中。

活動テーマの選定

【海洋ゼミ】

・海の町なのに、ニシン  
そば以外の海産物名物  
メニューがない

↓  
新たな名物メニューが生  
まれるきっかけを作りたい！

↓  
海の幸新メニュー開発

【経済ゼミ】

・「追分」「姥神祭り」「日  
本遺産」などの既存コン  
テンツに、若者として魅  
力を感じない

↓  
・観光で町に大きな経済  
効果を生める可能性を  
秘めたネタを探したい！

↓  
江差の新観光名所開発

実地調査セクション

【海洋ゼミ】

・レシピとなる海産物は  
手に入れやすい(日頃  
釣れやすい)のが良い

↓  
9/9 釣りセッション実施



【経済ゼミ】

・放課後、フィールドワー  
クを実施、町内各所を調  
査する

↓  
・一般来訪者が最も多い  
かもめ島をメインに考え  
る

中間発表

【ポスターセッション】

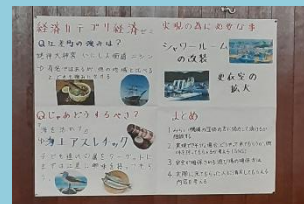
【海洋ゼミ】

「ソイ」「イワシ」が良く探  
れるので、これらを素材  
にした汁物の開発着手



【経済ゼミ】

かもめ島のビーチ賑わ  
い創出のための海上ア  
スレチック設備を要望



ゼミⅡ期(12月～)

【海洋ゼミ】  
高校調理室で  
開発開始



【経済ゼミ】  
町予算獲得へ  
協働申請中



### ■ 既存倉庫の拡張(受付機能化)と増設



・既存倉庫への受付カウンターおよび窓設置

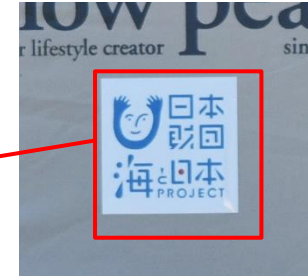


・第二倉庫建築  
※不足分を町が一部補助

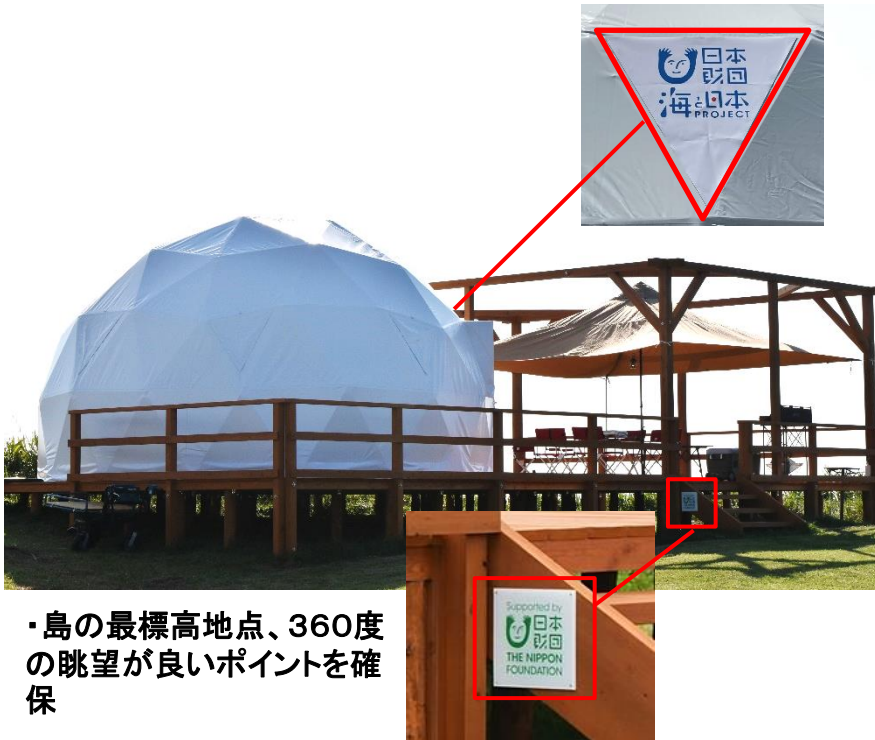
### ■ サマーキャンプ用テント設備整備(オフキャン!も兼用)



・耐寒性の高いテント設備を計5セット整備、寒冷期や降雨にも対応した環境を整備



### ■ 新設ドームテント及びウッドデッキ設備の整備



・島の最標高地点、360度の眺望が良いポイントを確保



### ■ 灯台マリンピング設備の整備



・メインテント



・サブテント(寝室)



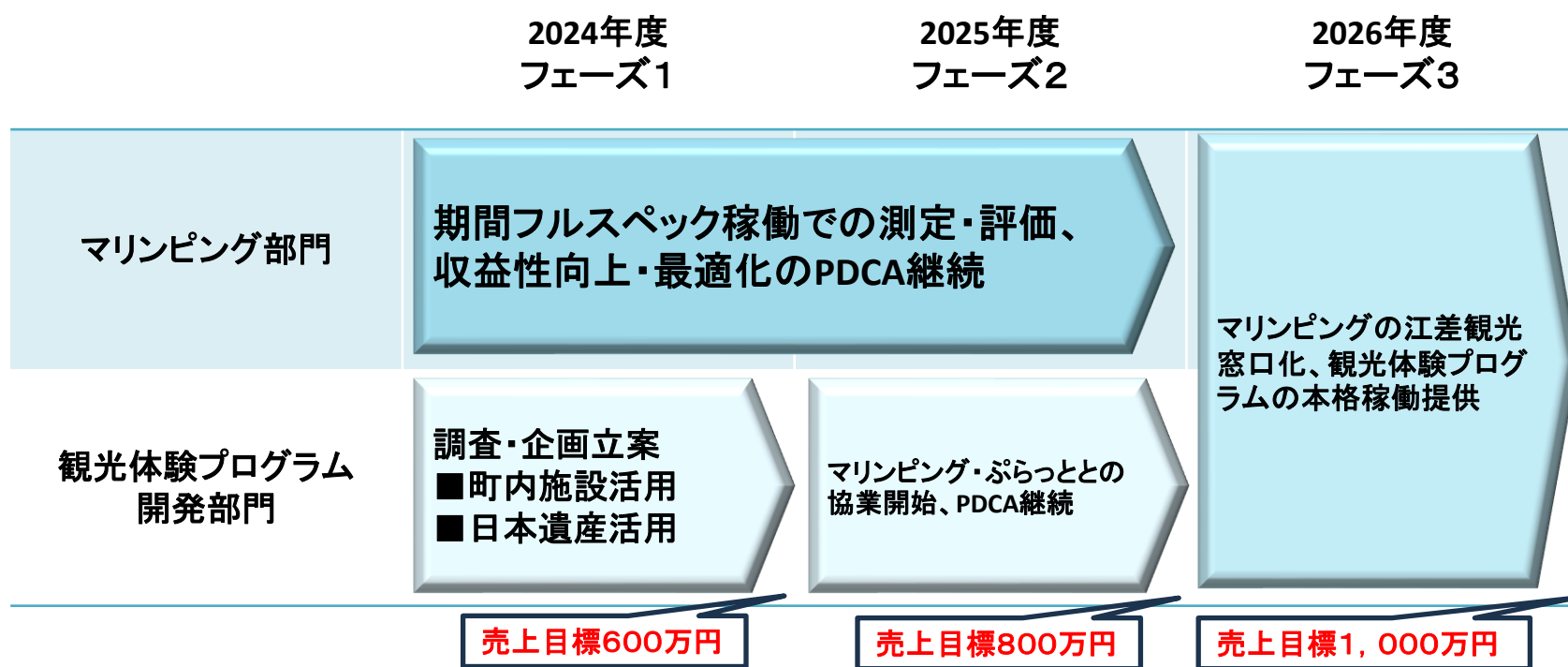
・大型タープ



・期間中、灯台敷地内で設営・撤収を繰り返す

# かもめ島マリumping 事業計画ロードマップ 2024-26

- 江差町が掲げる「北の江の島構想」と連携させ、新たに3カ年計画で事業を町の観光振興の柱に成長させる  
※同構想は令和9年より本格稼働する予定で進められている。島下へ新たな「道の駅」を設置し、かもめ島一帯と国道を整備する大規模計画。
- 2024-26の期間で、収支面での最適化を図るためのPDCAを継続的に行い、既存コンテンツを安定化・発展させる
- みらい機構がDMO法人として推進する「観光体験プログラム開発」部門(近隣地域全体を含む観光コンテンツ造成)をマリumping事業が併せ持つことで、相乗効果が生まれる観光振興策を推進する
- みらい機構が町より受託中の別事業であるアンテナショップ「ぷらっと江差」運営(新たな道の駅完成後には移転予定)とも協業体制を構築し、商品開発やイベント共催などで新たな集客効果の造成、人員の共同確保で運営の安定化を講じる。
- 国道→道の駅→かもめ島→近隣市街地の観光動線を発展させるうえで、マリumping事業がその中心的な役割を担う。
- この期間は町が財政補助を行い、構想が稼働する時期までに完全自走化を目指す。
- 販売チャンネルや市場をさらに拡大し、収益の最大化を図る
- インバウンド・AT観光への対応環境を整備する



# 2024年度単体でのマリumping事業計画案

## 1. マリumping事業フルスペック稼働および収益性の測定・評価と改善のためのPDCA実施

- ・プラン価格の見直し／オペレーションコストの削減／回転稼働率等の効率化／閑散期料金パッケージやダイナミックプライシングの活用  
※「アングラーズ向けライトパック」「バイカーズ向け素泊まりパック」「レイヤーズ優待プラン」などや、効果のある閑散期値下げなど
- ・期間中でも継続的にPDCAを繰り返し、最大値を測る

### 【アウトドア宿泊プラン】既存5プラン



マリumpingA/ISLAND



マリumpingB/MARINE



マリumpingC/LIGHT HOUSE



マリumpingD/手ぶらCAMP



マリumpingE/オフキャン!

### 【アクティビティプラン】既存10プラン



カニ釣り



マリunkait



海釣り



グラス・ホイール



マリunkホイール



海の日本遺産ウォーク



セーフティ・シュノーケリング



VIRTUAL DIVE



KAMOMEJIMA SUP



レジン・アート・スクール

## 2. アンテナショップ「ぷらっと江差」協業による業務負担・コストの分散

- ・仕入れ業務棟のマリumping業務を軽減／「手ぶらBBQ」の提供開始／仕入・商品開発ノウハウの共有／共同イベントの開催

## 3. 島上第一倉庫のセンターハウス整備

- ・チェックインのワンストップ化／物販の開始／アウトドアグッズレンタルの開始／共同イベントの開催／キャッシュレス化

#### 4. ビーチハウスの運営と海水浴場監視員業務の受託

- ・ビーチの活性化、賑わい創出／当日対応可能なアクティビティ一部受入窓口化
- ・島上未達者へのマリンスポーツPR／マリンスポーツや海遊びグッズレンタルなどの常設化／日本財団コンテンツのPR活動拠点利用／休憩スペースや救護拠点としての活用／「海のプール」からのビーチ利用者誘引／UPインストラクターズとの連携・交流拠点としての活用／ドリンクや軽飲食提供再開へ向けた体制強化に向けて／監視員パート雇用の創出／江差高校との連携



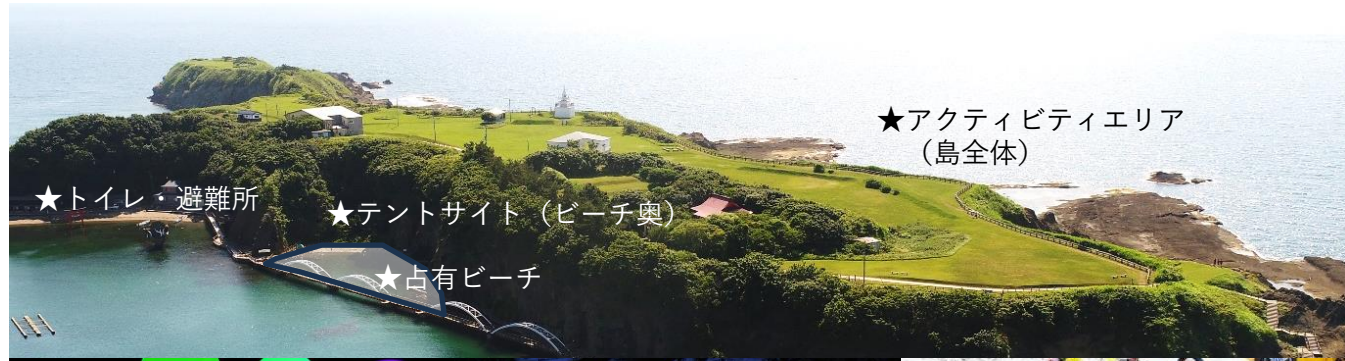
**ORII**  
BEACH HOUSE

#### 5. 島上の未利用地の活用

- ・景観の悪いエリアの排除／島上憩いスペースの中心として、建物解体跡地の草刈り・装飾などの活動と休憩場の提供／ビーチでの手ぶらBBQ利用を避けるため、旧花壇スペースのBBQブース化

#### 6. 冬期コンテンツの本格提供開始

- ・アウトドア備品の冬期利活用
- ・冬期アウトドア宿泊コンテンツW.I.A. (winter island adventure) の本格稼働 ※テストラン自体は2023年度中に実施予定
- ・スノートレックやスノーキャンドル、そり滑りなどの体験コンテンツ整備



占有ビーチのライトアップ  
バルーンで水上シエスタ等



スノーキャンドル・雪だるまで  
テントサイト装飾



スノートレックやクラフト体験など  
全天候対応可能な体験提供



## 7. 団体受入・サマーキャンプ開拓・教育連携の継続

- ・春期の遠足／春期、秋期の教育旅行／江差高校開発プログラム3種(2021完成)の提供開始／団体キャンプ等の受入れ／サマーキャンプ化に向けた調査継続／視察の有料受入開始(民間事業者・自治体行政機関・商工会など各種団体)

## 8. イベント収益化と地域貢献

- ・マリンフェスタを継承する海洋体験イベントの継続実施
- ・上記を【マリンピングフェス】として閑散期6月中に提供
  - 23年「海洋体験会」の発展イベント
  - SUPイベント、飲食ブース企画、江差海上保安署との海洋安全教育連携
  - 江差高校「海洋ゼミ」の開発する海の食メニュー発表の場として
  - ほかの海洋体験や催しも編入可能
- ・【秋フェス】を閑散期10月近辺に提供予定
  - オータムフェスト参入に代替する町内食イベントとして(産業まつりと重複しない範囲)
  - 一部海洋体験とクラフト体験の提供
  - ハロウィン・コスプレ・イベントの要素を付加
  - OKAERe南ひやま学との連携(イベント・経済・海洋の3ゼミ生の協力参加)
  - ネクイベ「人材バンク」との連携によるボランティア募集、講師・ゲストの催しも付加
- ・航路標識協力団体としての活動継続
- ・ネクイベへのボランティア協力
- ・SUPインストラクターズによる洋上浮遊ごみクリーン活動の啓蒙と参画
- ・自主ビーチクリーン、島清掃と環境美化・整備活動



## 9. 地域おこし協力隊の活動の場創出

- ・観光体験プログラム開発部門としての計画策定／日本遺産コンテンツ開発に向けた調査・企画・テスト／いにしえ街道活性化につながる調査・歴まち連携(スイーツ街道化、日本遺産街ぶらルート／造成、日本遺産新拠点サポート、施設・備品の活用など)／空き物件調査、個人・事業者向けニーズ調査など／民泊につながるノウハウ(宅建業法・消防法など)・コネクション(宅建業者・土地家屋所有者、借用希望者など)形成／マリンピング事業の転用、ノウハウ共有／ぷらっと業務への参加と6次産業的取り組みの実施／自身の協力隊満了後ビジョンに向かうためのバックキャストと活動計画策定／観光商品開発につながる基礎調査活動(市街地・山野・海洋部・近隣3町)／観光ツアー商品開発に係る諸準備